

# 雑木林の マツタケ類



9月～10月頃、雑木林でマツタケと姿も香りもそっくりのきのこが見つかることがあります。

これらは古くは「ニタリ」、「サマツ」等と呼ばれたマツタケの近縁種で、味も香りもマツタケに近く、むろん食用になります。

南丹地域でも自生が確認されていますので、ぜひ探してみましょう。

## 最初は詳しい人に見てもらおう

雑木林のマツタケ類にはまだ分かっていないことも多く、未知の種類があるとも言われています。それらしいきのこを見つけたら、最初は詳しい人に種類を確認してもらいましょう。雑木林のマツタケ類もマツタケ同様シロを造って毎年同じ場所から生えるので、1度調べておけば大丈夫です。

南丹広域振興局や京丹波町本庄にある京都府林業試験場でも、依頼があればきのこの種類を調べます。

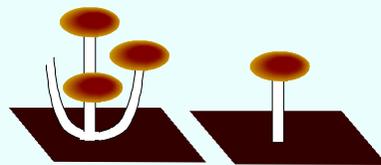
## きのこの種類を 調べてもらうときには



どこで？  
(マツ林、雑木林等)



何に？  
(地面、枯木等)



どんな風に？  
(バラバラ、束等)

生えていたかをメモし、実物を持参しましょう(写真だけでは分かりません)

## 採取と利用



雑木林のマツタケ類の採取と利用はマツタケに準じます。

販売する場合、ツガ林に生えるマツタケは、今のところマツタケとして扱って問題ありません。バカマツタケとニセマツタケはマツタケと区別して売る必要があり、錦市場等特殊な所しか流通していないので、そうしたところへの販売ルートを探るか、直販所での販売を試みてはどうでしょう。

この資料についてのお問い合わせは

〒621-0851  
京都府 亀岡市 荒塚町 1-4-1  
京都府南丹広域振興局 農林商工部  
農林整備室 林業振興担当  
TEL:(0771)22-1017 FAX:(0771)21-0118

## バカマツタケ



バカマツタケは9～10月頃、クヌギ、ナラ、シイ、カシ等の林の腐葉土の中から発生します。外見はマツタケとほとんど同じで、ニタリとも呼ばれます。マツタケよりやや小型ですが、香りはマツタケより強いとされます。輸入マツタケの一部はこのバカマツタケです。

## ニセマツタケ



ニセマツタケは9月頃、クヌギ、ナラ、シイ等の林に発生します。発生期がマツタケより一箇月ほど早いことから、サマツとも呼ばれます。マツタケより香りが弱く、肉質もやや劣ります。また、石突きが尖っていることが特徴です。



## ツガ林にもあります

針葉樹のツガにも、マツタケと同じきのこが生えることがあります。

これは、マツタケだとされていますが、よく似た別種のきのこだという説もあり、まだよく分かっていません。

やや小型である他は、生える時期や好む環境はマツタケと同じ（商品性も同じ）ですから、近くにツガが生えていたら一度探してみましょう。



### ツガって何？

ツガは、モミに似た、平たい葉をした針葉樹です。葉の裏は白く、葉の先が丸いことでモミと区別できます（モミにも似たきのこが生えますが、これはマツタケとは別物です）。

